

「A4 一枚一単元教材」の実践報告

政 井 美 穂

1. はじめに

山内・政井（2016）において、「A4 一枚一単元教材」という考え方を提案し、その教材の一例を示した。これは、「学校」や「型にはまった形の学習」から離れつつある日本語学習に対応するべく、提案した教材である。

現在、初級学習者用の日本語教科書は、さまざまなものが出版されている。その中でも特に、スリーエーネットワークの『みんなの日本語』は、そのシェアが90%以上であるとも言われている。国内外の日本語教育機関やボランティア団体などで使用され、現在の日本語教育を支えている教科書である。しかし、これからの日本語教育に必要な日本語教材は、1冊のテキストではないのではないか。「学習者の多様化」「学習環境の多様化」に伴って、求められてきているのは、気軽に始められて気軽にやめられ、また、どこから始めてどこでやめればいいのか簡単にわかるような、体系的があつて、かつ、柔軟性に富んだ教材なのではないだろうか。

本稿では、筆者の勤務先である日本体育大学荏原高等学校（以下、便宜上「荏原高校」と示す）の日本語の取り出し授業についての実践報告を行なうとともに、「A4 一枚一単元教材」の可能性を探っていきたい。

2. 取り出し授業の対象生徒

荏原高校は、日本体育大学の附属高校であり、スポーツ界のプロフェッショナルを目指す生徒が多数在籍する。それは、日本人だけに留まらず、海外からもスポーツ留学という形で生徒が訪れている。

取り出し授業の対象者は、海外から荏原高校にスポーツ留学をしている生徒である。荏原高校の留学生は、モンゴル、トンガ、中国から、それぞれ来日し

(2)

ており、国籍は各国にある。留学生たちは、柔道、バレーボール、ラグビー、野球とさまざまなスポーツに取り組んでおり、それぞれの舞台で活躍している。

2015年度は、モンゴル人4名、トンガ人2名を対象にし、2016年度は、モンゴル人4名、トンガ人2名、中国人2名、2017年度現在は、トンガ人2名、中国人2名を対象として、授業を行なっている。

ここで再度、申し上げておきたいのは、上記生徒たちの留学の目的がスポーツにあるという点である。日本語学校や大学で日本語を学ぶ留学生の多くは、理由はさまざまであれ、日本語を学ぶことを第一目的としている。そのため、日本へ留学し、日本で生活しているという、それだけで日本語学習へのモチベーションは、当然のように高いものだと思ってしまうがちである。

荏原高校の留学生たちにとっては、学校内、寮内、部活内での生活が一日の大半を占める。そのため、生活の中で必要な日本語となると、日々の生活を送るだけで身につけてしまうようだ。よって、教科書通りの日本語とはいかないが、チームメイトやクラスメイト、先生方とのコミュニケーションに事欠くことは少ない。その影響か、日本語学習の必要性を感じていない生徒が多く、同時に、日本語学習に対するモチベーションも高いとは言えない。また、荏原高校では、筆者が勤務するまで、日本語教師による日本語の授業というものがなかった。つまり、留学生たちは日本人と同じ教室で、日本人と同じように国語や数学の授業を受けていたということである。とはいえ、授業内容を理解できるわけもなく、誤解を恐れず言えば、留学生はとりあえず出席して、ノートを取っていればよいという状況だったとも言える。そういった、やむを得ない事情から、学習の習慣というものが、なかなか身につけていなかった留学生たちからは、日本語取り出し授業に関して「コミュニケーションは取れているのに」「日本語はもう分かっているのに」「今までは勉強しなくてもよかったのに」といった反発の声が出ていたのは言うまでもない。

このような状況にも関わらず、それまで日本語学校で行なっていたような学習形態、指導方法を実践すれば、授業が成り立つだろうと考えていた筆者は、初日の授業で面食らう事態となった。かれらには、1冊のテキストを使い、これまでの指導方法に乗っ取って、一つずつ文法を覚えていくといったような、従来通りの日本語教育は通用しなかった。試行錯誤を続けた結果、かれらを前に「A4一枚一単元教材」という新しい日本語教材の必要性を見た気がしている。

3. 取り出し授業の目的と授業構成

荏原高校における日本語取り出し授業は、日常生活の中で使用される日本語を正しく理解し、運用できるようにすること、日本語の基礎を底上げすることを目的としている。週 10 時間、通常の授業時間に留学生だけを取り出し、日本語の授業を行なっている。「文型」「語彙」「漢字」「文化」と大まかに分類し、「読む」「書く」「話す」「聞く」の 4 技能を総括的にレベルアップさせることを目指している。そのために「文型」3 時間、「漢字」3 時間、「語彙」2 時間ずつ行なうのを基本として構成している。

また、学年や日本語レベルもさまざまである生徒に対応するため、10 時間中 8 時間は、荏原高校の先生方にアシスタントとして入っていただき、できるだけ個々のレベルに合わせた授業ができるように展開している。学年によって異なる学習事項に対応するため、1 コマの授業の中で、前半を 2 年生、後半を 3 年生というように時間を分けて、学習事項の導入を行なった。その際、導入を行っていない方の生徒には、既習事項の復習の時間として、アシスタントの先生の指導のもと、練習問題に取り組ませた。

また、アシスタントの先生が入らない 2 時間は、簡単な作文や会話練習、ゲーム形式の日本語学習など、全体で行なえる活動にしたり、日本文化の紹介や日本の音楽 (J-POP) の紹介といった時間 (便宜上、以下では「文化」と示す。) を設けたりした。

さらに、今年度からは定期テスト期間中に、文化研修が行なわれるようになった。これは、東京都内や東京近郊の観光名所の見学を通じて、日本文化に触れてもらうためのものである。それを受けて、レポート作成や新聞作りも行ない、校内に掲示もしている。

4. 使用教材

授業に使用する教材は、漢字教材を除き、適宜、作成した。漢字教材は、以下に示す教科書を使用した。「文型」授業で使用する教材の作成には、『みんなの日本語』を、「語彙」語彙教材の作成には『実践日本語教育スタンダード』を参考にした。4.1. は、教材を作成する際に参考にした教科書・教材を挙げ、4.2. では、作成教材の例を挙げる。

(4)

4.1. 教科書・教材

プリントを作成する際に、参考にした教科書・教材は以下の通りである。なお、漢字学習については、筆者が教材を作成したわけではなく、以下の教科書をそのまま使用した。

教科書：『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級Ⅱ 第1版』（スリーエーネットワーク）

『にほんご語彙力アップトレーニング』（アスク出版）

『にほんご会話トレーニング』（アスク出版）

『わかる！話せる！日本語会話 基本文型88』（Jリサーチ出版）

『テーマ別 中級から学ぶ日本語（三訂版）』（研究社）

『実践日本語教育スタンダード』（ひつじ書房）

漢 字：『漢字マスター N5』（三修社）

『漢字マスター N4』（三修社）

問題集：『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 標準問題集』（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級Ⅱ 第1版 標準問題集』（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級 第2版 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）

『日本語能力試験対策 N4 漢字・語彙・文法』（三修社）

『ゼットイ合格！日本語能力試験完全模試 N5』（Jリサーチ出版）

『ゼットイ合格！日本語能力試験完全模試 N4』（Jリサーチ出版）

4.2. 作成教材例

授業で使用する教材は、4.1. で挙げた教科書を参考にしながら作成した。「文型」授業で使用した教材（以下、「文型」と示す）と「語彙」授業で使用した教材（以下、「語彙」と示す）の一部をそれぞれ提示する。

まずは、「文型」についてである。「文型」は、「A4一枚一単元」を基本として、1コマで1つの文型を習得できるようにした。また、教材に載せる例文には、留学生や身近に関わる人の名前を積極的に使用し、内容も生徒の身近な場面や状況にアレンジしつつ、少しでも興味をもってもらえるようにした。以下、「文型」の一部を抜粋したものを提示する。なお、作成した元々の教材には、漢字すべてにひらがなのルビが振られていたが、【教材例1】では、それらを省略して示す。

【教材例 1】「V 辞書形 / <ない形> ない + ~つもりです (意志)」

来月 新しい iphone を 買う つもりです。

1. わたしは ずっと 日本に 住む つもりです。
2. わたしは 来年から 日本体育大学に 進学する つもりです。
3. わたしは 将来 ラグビーの 指導者になる つもりです。

【問題】

Eg1 12月までに 漢字を 500 覚えます

→ (12月までに 漢字を 500 覚える つもりです。)

- 1) 来月から 新しい トレーニングを 始めます
→ ()
- 2) 将来 中国語を 習います
→ ()
- 3) あとで 家族に 電話をかけます
→ ()
- 4) 明日から コーラーは 飲みません
→ ()
- 5) 今日から 授業中は 寝ません
→ ()

Eg2 自由に答えましょう！

いつ帰国しますか。 → (1月に 帰国する つもりです。)

- 6) 冬休みは どこへ 行きますか。
→ ()
- 7) だれと 昼食を 食べますか。
→ ()
- 8) 今晚は 何時に 寝ますか。
→ ()

(6)

【教材1】のように、授業に使う教材を、1時間に1枚だけとすることで、ゴールが一目で分かり、生徒の集中力が途切れにくくなったように感じる。また、1枚に1文型とすることで、その時間で覚えることが明確になり、1つずつ確実に覚えていけるため、学習効率も上がったように思う。

同様に「語彙」教材についてである。「語彙」も「文型」と同様、「A4一枚一単元」を基本として作成した。授業は、取り上げた動詞の修飾語となる語を確認しながら進める。多くの語彙にふれることができるよう、修飾語のテーマ（「乗り物」「遊園地」など）を考え、テーマ内の語彙を網羅した。

【教材例2】「～に乗ります（語彙）」

() _____ の乗ります！

【乗り物】

車	自動車	自転車	電車	新幹線
船	飛行機	ヘリコプター		
バス	バイク	トラック		
救急車	消防車	パトカー		
馬				

【遊園地】

観覧車	ジェットコースター
メリーゴーランド	コーヒーカップ

【その他】

エレベーター	体重計	
ひざの上	波	リズム

【いっしょにおぼえましょう】

各駅停車《各停》 特急
踏切 線路 優先席 信号機 横断歩道 歩道橋
徒歩

《似ていることば》 乗車します

【教材 2】によって、「文で発話する」ことへの意識化ができるようになったと感じる。「乗り物」「遊園地」などの名詞や「乗る」などの動詞について、それぞれ単語でおぼえるだけではなく、「名詞＋助詞＋動詞」というつながりで、一つの文が作られていくという理解がスムーズになった。また、文が言えるということは、学習者の積極的な発話を促す手助けになっていくのではないかと考えている。

5. 授業内容

今年度の授業では、「読解」には重きを置かず、「文型」「語彙」に重点をおくことにした。これは、授業目標に掲げた「日本語を正しく理解し、運用する」ことを達成させるという意味においても、基本文型は正しく理解しておく必要があると考えたからである。また、豊富な語彙があれば、単語のみの発話になってしまったとしても、コミュニケーションをとる上での何らかの足掛かりになるのではないかと考えたことによる。

なお、授業内容については、生徒の要望や興味、また授業進度などに応じて、適宜、変更した。具体的な授業内容は次の通りである。5.1. 文型、5.2. 語彙、5.3. 漢字、5.4. 文化、5.5. 文化研修の順で示していく。

5.1. 文型

4. に記載した教科書に沿って基本的な文型を網羅した。4.1. で提示した通り、「A4 一枚一単元」を基本として、1 コマで1つの文型を習得できるようにした。また、授業では、学習者が苦手としている、正しく読むこと、正しく書くことに重点を置き、書く作業を多く取り入れるようにした。以下、今年度学習した文型¹を【表 1】で、一覧にして提示する。

1 何の道しるべもない状態では、教材作成も、学習者の言語の積み上げも、上手くいかななくなってしまうだろうと判断した。そこで、文型の学習順は、日本語教科書としては代表的な『みんなの日本語』に倣うことにした。

【表 1】文型学習内容一覧

	文型	学習内容	学習進度	
			2年	3年
第1課	①わたしは（人名）です。	・自己紹介 ・人の紹介	済	済
	②（人名）は学生じゃありません。			
	③（人名）は会社員ですか。			
	④（人名）も会社員です。			
第2課	①これは【名詞】です。	・物の紹介 ・指示詞（こそあど）	済	済
	②それは（人）の【名詞】です。			
	③この【名詞】は（人）のです。			
第3課	①ここは【場所名詞】です。	・場所を指示できる	済	済
	②【場所名詞】はあそこです。			
第4課	①今4時5分です。	・時間が言える ・過去の話ができる	済	済
	②わたしは毎朝6時に起きます。			
	③わたしはきのう勉強しました。			
第5課	①わたしは【場所】へ行きます。	・行き先を伝えられる	済	済
	②わたしは【乗り物】で帰ります。			
	③わたしは（人）と日本へ来ました。			
第6課	①わたしは【名詞】を読みます。	・一日の行動を伝えられる	済	済
	②わたしは【場所】で【物名詞】を買います。			
	③いっしょに【場所】へ行きませんか。			
	④ちょっと休みましょう。			
第7課	①わたしは【道具】で～をします。	・【道具】を使う動作について説明できる ・簡単な授受表現ができる	済	済
	②わたしは（人）に【物名詞】をあげます。			
	③わたしは（人）から【物名詞】をもらいます。			
	④わたしはもう～しました。			
第8課	①【名詞】は《い・な形容詞》です。	・周りの様子や状態について、形容詞を使って表現できる。	済	済
	②【固有名詞】は《な形容詞》な【名詞】です。			
	③【固有名詞】は《い形容詞》い【名詞】です。			
第9課	①わたしは～が好きです。	・「～が」を使って、好きなもの言える ・「～から」を使って、簡単な理由言える	済	済
	②わたしは～がわかります。			
	③明日は休みですから、ゆっくり寝ます。			

	文型	学習内容	学習進度	
			2年	3年
第10課	①【場所名詞】に～があります。	・所有物や所在について言える	済	済
	②【場所名詞】に～がいます。			
	③～は【場所名詞】にあります。			
	④～は【場所名詞】にいます。			
第11課	①【場所名詞】に【物名詞】が【助数詞】あります。	・助数詞を使って、数を数えることができる	済	済
	②わたしは日本に【助数詞】年います。			
第12課	①きのうは～でした。	・過去の様子や状態について、 形容詞を使って表現できる	済	済
	②きのうは《い形容詞》かったです。			
	③～は一より《い・な形容詞》です。			
	④わたしは～の中で一がいちばん好きです。			
第13課	①わたしは【物名詞】がほしいです。	・ほしいもの、したいことについて言える	済	済
	②わたしは～たいです。			
	③わたしは【場所】へ～しに行きます。			
第14課	①～てください。	・動詞を使って、依頼や誘い ができる ・現在進行中の動作について 説明できる	済	済
	②～ましようか。			
	③今、～ています。(現在進行)			
第15課	①～てもいいですか。	・許可を求めることができる ・習慣的な行動について説明 できる	済	済
	②～ています。(結果の状態)(習慣的な行動)			
第16課	①～て、～て、～します。	・行なった順番通りに、動作 や様子、状態を説明できる	済	済
	②～てから、～しました。			
	③～は《い・な形容詞》て、《い・な形容詞》です。			
第17課	①～しないでください。	・禁止事項が言える、指示が 分かる	済	済
	②～なければなりません。			
	③～なくてもいいです。			
第18課	①～ができます。	・自分のできること、趣味の 説明ができる ・「～まえに」を使って、動作 の順番が言える	済	済
	②趣味は～することです。			
	③～まえに、一します。			
第19課	①～たことがあります。	・過去の経験について述べる ことができる ・物事の変化の説明ができる	済	済
	②～たり、～たりします。			
	③これから だんだん～くなります。			

	文型	学習内容	学習進度	
			2年	3年
第20課	普通体（「です」「ます」をつけない友だち言葉）	・友だちとフランクな会話ができる		済
第21課	①わたしは～と思います。	・自分の意見、考えが言える		済
	②わたしは～と言いました。			
	③今日は疲れたでしょう？			
第22課	①これは～した【名詞】です。	・長い文を話すことができる		済
	②～ている人は【人名】です。			
	③きのう～した【名詞】は～ました / ません。			
第23課	①～するとき、一。	・道具や機械の使い方を説明できる		済
	②～すると、一。			
第24課	あげる / もらう / くれる（授受表現）	・授受表現が使える		済
第25課	①～たら、一しません。	・状況に応じて変わる対応について言える		済
	②～ても、一します。			
第26課	①今、～なんです。	・自分の状況を説明できる ・丁寧な依頼ができる ・助言や指示をも求めることができる		済
	②～なのですが、一していただけませんか。			
	③～なのですが、一たらいいですか。			
第27課	①可能動詞、見えます、聞こえます	・できること、できないことが可能動詞を使って言える ・見える、聞こえるなどの状態が言える		済
	②～ができます			
	③～しか～ません			
	④～は一、～は一（対比）			
	⑤～には一 / ～では一（複合動詞）			
第28課	①～ながら一	・同時に行なわれる継続的な動作について言える。 ・日常の習慣が言える ・いくつかの理由を一文で言える		済
	②～ています（日常生活の中の習慣的な行動）			
	③～し、一（並列）（理由）			
第29課	①【名詞】が～ています。	・事物の状態を描写できる ・「～てしまいます」を使って、行為が完了したことを述べられる ・不都合な事態に対して、残念、遺憾に思うことを述べられる		済
	②【名詞】が～てあります。			
	③今日中に～てしまいます。（完了）			
	④～てしまいました。（遺憾）			

	文型	学習内容	学習進度	
			2年	3年
第30課	①～てあります。	・事物の状態を説明できる ・将来のためにしておくべきことが述べられ、また、その指示が分かる		済
	②～ておきます。(準備)(措置)(放置)			
第31課	①～よう。(意向形)	・自分の意志、計画や予定を意向形や「つもりです」を使って言うことができる		済
	②～ようと思っています。			
	③まだ～ていません。			
	④～するつもりです。			
	⑤～予定です。			
第32課	①～ほうがいいです。	・「ほうがいいです」で忠告、助言ができる。 「でしょう」「かもしれません」で推量の表現が言える。		済
	②～でしょう。			
	③～かもしれません。			
第33課	①命令形	・指示・命令を理解し、運用できる。伝言したり、伝言を伝えたりできる。		済
	②禁止形			
	③～と書いてあります / 読みます			
	④～は～という意味です			
	⑤～とっていました / 伝えていただけませんか			

5.2. 語彙

語彙不足を補うための授業である。たくさんの語彙にふれることができるよう、プリントや教材を準備したが、覚えることは強制しなかった。「日常生活において、自分が使い、必要だと感じる語彙だけを覚えましょう」としたことで、楽しみながら学習を進められたのではないかと感じる。以下、【表2】で、学習事項を一覧にする。なお、導入した「動詞」とその際にもに用いる「名詞」をテーマでまとめて提示する。

【表2】 語彙学習内容一覧

導入動詞	語彙テーマ	学習進度	
		2年	3年
() を着ます	衣料、上着、下着、目的別衣類、ズボン、履物	済	済
() を飲みます	飲み物、ジュース、お酒、食べ物、その他	済	済
() で飲みます	道具	済	済
() を買います	電化製品、ファッション、食べ物、道具	済	済
() で 買います	店、支払方法、その他	済	済
() と 行きます () へ来ます帰ります	人、場所	済	済
() に行きます () で来ます帰ります	時間、乗り物	済	済
() を教えます習います	科目、学校、生徒	済	済
() を始めます終わります	学校、スポーツ、ミーティング、仕事、パーティー	済	済
() に起きます寝ます	時間、長さ、場所、人	済	済
() に乗ります	乗り物、遊園地、その他	済	済
() にありますいます	物、植物、約束、動物、人	済	済
() を手伝います	人、家事、仕事、その他	済	済
病気の名前	～が痛い、～が出る、～が / をする、～なる	済	済
() を見ます	テレビ、からだ、勉強、その他	済	済
() を 聞きます	音、質問する、情報 そのとおりにする	済	済
() がいます	人、国、場所	済	済
() に 注意する () を	トラブル (に)、からだ (に)、災害 (に)、人 (を)	済	済
() と住みます	家族、親、祖父母、夫婦、子、兄弟、親戚	済	済
体の名前	頭、顔、体	済	済
服装のイメージ	派手、地味、ラフな、スポーティーな、上品な…		済
服の素材	薄手、厚手、丈夫な、動きやすい、伸縮性…		済
服のサイズ	丈が長い、ウエスト、ヒップ、きつい、ゆるい…		済
服の柄	チェック、水玉、ボーダー、ストライプ、無地…		済
料理	味、調味料、調理方法		済
性格	～的な、～っぽい、～屋、～がある		済

5.3. 漢字

漢字学習には、4. で記載した『漢字マスター N5』『漢字マスター N4』（三修社）を使用した。教科書は、1～15章までであり、テーマごとに章立てされている。1章あたり3コマかけて学習し、7～8個の漢字を覚えていった。1コマ目、2コマ目では、新出漢字の導入をし、確認をし、練習問題をした。3コマ目では、章全体の復習をして、章テストを行なった。以下、今年度学習した漢字を一覧【表3】にして提示する。

【表3】漢字学習内容一覧

	学習テーマ	学習内容	学習進度	
			2年	3年
N5/ 第1課	すうじ	一～十, 百, 千, 万, 円	済	済
第2課	カレンダー	月, 火, 水, 木, 金, 土, 日, 年	済	済
第3課	人	人, 口, 目, 耳, 手, 足, 力	済	済
第4課	しぜん①	山, 川, 田, 石, 花, 竹, 雨	済	済
第5課	ばしょ	上, 下, 左, 右, 外, 内, 中	済	済
第6課	学校①	学, 校, 先, 生, 名, 字, 本, 体	済	済
第7課	学校②	大, 小, 高, 友, 入, 出, 門	済	済
第8課	かぞく	父, 母, 子, 男, 女, 犬, 鳥	済	済
第9課	どうし①	立, 休, 見, 聞, 行, 来, 帰	済	済
第10課	たべもの	米, 茶, 牛, 肉, 魚, 貝, 好, 物	済	済
第11課	しぜん②	林, 森, 畑, 岩, 音, 明, 暗	済	済
第12課	どうし②	言, 書, 読, 話, 食, 飲, 買	済	済
第13課	町	町, 寺, 電, 車, 東, 西, 南, 北	済	済
第14課	時間	時, 間, 半, 分, 今, 何, 夕, 方	済	済
第15課	けいようし	新, 古, 長, 安, 多, 少, 元, 気	済	済
N4/ 第1課	家族の生かっ			
第1課①	家族	家, 族, 兄, 弟, 姉, 妹, 私, 育	済	済
第1課②	マンション	部, 屋, 広, 低, 緑, 静, 遠, 近	済	済
第1課③	しごと	会, 社, 働, 作, 工, 場, 始, 終	済	済
N4/ 第2課	コンビニ			
第2課①	レジ	店, 客, 親, 切, 売, 当, 品		済
第2課②	店内	便, 利, 使, 銀, 白, 黒, 紙		済
第2課③	24時間	朝, 晩, 昼, 夜, 前, 後, 午, 前		済
N4/ 第3課	おくり物			
第3課①	荷物	荷, 送, 宅, 急, 速, 遅, 重, 軽		済
第3課②	あて先	住, 所, 様, 主, 番, 地, 号		済
第3課③	都道府県	京, 都, 道, 府, 県, 市, 区, 村		済
N4/ 第4課	デート			
第4課①	デート	毎, 週, 映, 画, 図, 館, 公, 園		済
第4課②	けっこんきねん日	夫, 妻, 特, 思, 料, 理, 有		
第4課③	ファッション	洋, 服, 衣, 短, 毛, 糸, 玉, 光		

5.4. 文化

「文化」と称し、活動的な時間を設けた。内容は、年中行事の紹介やゲーム形式の日本語学習など多岐に渡る。生徒の要望に沿って、全員でJ-POPの歌詞を覚えて、熱唱する時間にあてたこともある。

(14)

例：①日本語の音楽（J-POP）

②年中行事の紹介（子供の日、七夕、節分…）

③日本の遊び（折り紙、あやとり…）

④ゲーム形式の学習（すごろく、漢字ビンゴ、伝言ゲーム…）

⑤作文（家族の紹介、国の紹介…）

5.5. 文化研修

定期テスト期間を利用して、東京都内や東京近郊の観光名所を見学した。研修前には、事前学習として、その土地の歴史や有名な食べ物などを紹介し、学びを深めた。研修後には、日本語でのレポート作成や新聞作りも行なった。以下、文化研修として、訪れた場所を挙げる。

【文化研修訪問地】

2016年度 1学期中間：鎌倉（鶴岡八幡宮、小町通り、大仏）

1学期期末：東京駅付近、皇居、国会議事堂、六本木ヒルズなど…

2学期中間：横浜（赤レンガ倉庫、山下公園、中華街）

2学期期末：実践女子大学（日野キャンパス）

学 年 末：浅草（浅草寺）、東京スカイツリー

2017年度 1学期中間：上野（上野動物園、アメ横）

1学期期末：江戸東京博物館

2学期中間：銀座（歌舞伎）

2学期期末：実践女子大学（渋谷キャンパス）予定

6. おわりに

日本語取り出し授業をスタートした2015年度に比べると、年を追うごとに、授業の内容・作成教材ともに、充実してきていると感じる。また、少しずつではあるが、生徒たちにも、日本語学習や日本語取り出し授業への意識が芽生えてきているようにも思われる。

当初は、それまで勤めていた日本語学校で行なっていた「導入→練習→確認」を確実に実行していかなければ、日本語学習の意味がないと思っていた。教師が何かを質問すれば、応答が返ってきて、教師が何かを発すれば、すかさずリピートがある、それが当たり前授業風景だと思い込んでしまっていた。そのため、日本語学習が全く初めての学習者には、教師が何かを言ったら反応する

というところから示さなければいけないことにも気付けなかった。「導入→練習→確認」という一連の流れを全て行なわなければいけないとの思い込みが強すぎて、何度か実行を試みている。そして、何度目かの授業で気が付いたことがある。これまでの指導方法に乗っ取っていても、荏原高校の留学生は誰一人として、楽しそうではなく、教師側の自己満足でしかないのではないかということだ。教師の一人芝居の導入から始まり、例文の提示、全員でのコーラス、リズムカルな代入練習や変換練習、全体に問いかけ→個別に問いかけ→また全体に問いかけて確認をして、QAをして、会話練習をして…といったそれまでの指導方法は理想の形ではあるが、荏原高校の留学生には、荏原高校の留学生に合う授業の進め方があるのではないかと考えるようになった。

そんな中で作成したのが、「A4一枚一単元教材」である。これを使用することで、これまでの日本語教育の型に囚われず、自由な発想で、柔軟な授業ができるようになってきた。雑談の時間を多く取り、代入練習・変換練習の時間、コーラス、会話練習を少なくする。新しい文型を定着させることを目指すというよりも、新しい文型の紹介に留まるレベルかもしれないが、生徒の嫌々させられている感じはなくなった。日本語学校の授業がスピード感たっぷりに、教師がグイグイと引っ張って走っていくイメージだとしたら、荏原高校の授業は、生徒のペースに合わせて伴走するようなイメージである。そんな風に学ぶ側のペースに寄り添って、授業を進めて行くのも、学習の在り方の一つでなないだろうか。また違う環境であれば、その環境に合った授業の進め方があるだろう。「A4一枚一単元教材」は、全ての教授方法に対応可能な教材であると思っている。しかし、教材の在り方や、教材を使った授業シラバスについては、依然として、手探り状態が続いていることも確かである。

荏原高校の日本語取り出し授業においては、約2年間に渡り、授業の軸として「A4一枚一単元教材」を使い続けてきた。6. では、「A4一枚一単元教材」への学習者の反応やそれを使うことで得られるメリット、また、今後、教材を使い続けていく上での課題をまとめていきたい。

6.1. 学習者の反応と「A4一枚一単元教材」を使うメリット

「A4一枚一単元教材」を使用する中で、一番に感じることは、留学生の学習時の集中力が上がったことである。「A4一枚一単元教材」以前は、『みんなの日本語』の内容をレジユメにして配布していたが、1単元に複数の導入事項があることや、それに伴って、覚えることがたくさんあるというのは、教師が思っているよりも、学習者の負担だったのかもしれないと感じた。必要な語だ

け、必要な文だけを1時間に1枚分、しかも、1文型でいいというのは、学習者の負担を軽くしてくれていると思われる。

また、学習すること自体に嫌悪感がある生徒も「1枚ならば…」といった様子で学習に取り組んでくれることが多くある。「この1時間で、この1枚だけは全員必ずしましょうね」「これが終わったら終わり！1枚終わればいいよ」という声掛けができるため、学習のモチベーションを保ちやすく、授業も進めやすくなっている。「A4一枚一単元教材」は、学習者の心理的負担を減らすのはもちろんであるが、教師の心理的負担も軽くしてくれているように感じる。

さらには、手作り教材ならではのことだが、学習者自身を登場させ、例文も学習者の身近な話題にすることで、より理解が深まっているのではないかと思う。自分の名前探しが始まって、盛り上がるといったような、思わぬメリットが盛りだくさんであった。

6.2. 今後の課題

課題として、取り組むべきことは、未だ山積みである。大きく分けて、①取り出し授業についての課題と②「A4一枚一単元教材」についての課題があるので、それぞれ見ていく。

まず、荏原高校の日本語取り出し授業についてである。今年度は学年で分けて、学習を進めて行くようにしたが、導入にかける時間配分が上手くできず、思ったように授業を進められないことが多くあった。生徒のペースに寄り添う授業という形ではあるが、全体的にゆったりしすぎるので、メリハリをつけながら、モチベーションを保つ工夫が必要であると感じた。また、できるだけ、個人個人のレベルに合わせて対応していきたいと考えているが、授業時間も限られており、限度がある。どこまで授業内で扱って、どこからは個別に対応していくのか、自分の中でしっかり基準²を作っておきたい。さらに、これまでは「文型」と「語彙」の学習に重点を置いて取り組んできたが、「読解」や「聴解」なども積極的に取り入れて、もっと授業に変化を持たせていきたいと考えている。

次に「A4一枚一単元教材」についての課題である。現在は、『みんなの日本語』の出題順に沿って文型を提示している。しかし、それが正しい在り方なのかが分からない。あるレベルまでは、文型を積み上げていく必要があると思

2 たとえば、個別に取り組んだ課題でも、みんなが同じようなミスをしていたら、授業内で注意を促したり、どこがどう違うのか考える方が良いと思われるものは、全体で考える時間を取ったりするなど。

われるが、それが何課の文型までなのか、何課の文型からは、入れ替えが可能なかがはっきりしていない。また、それは、荏原高校の生徒が日常生活を送る上で必要となる文型によっても変わってくると思われる。たとえば、学校生活や部活動の中で、命令形や禁止形が使われる機会は非常に多い³。しかし、『みんなの日本語』の順番通りにいけば、命令形や禁止形を勉強するのは33課ということになる。何から教えていくべきなのかを明らかにするには、まだ時間がかかりそうである。また「A4 一枚一単元教材」の学習では、基本的に「覚えたい所は覚えておきましょう」というスタイルを採っている。つまり、学生自身に覚えるところ、覚えないところの選択を委ねているということである。しかし、日本語能力試験など、各種の試験を受けることになった場合「A4 一枚一単元教材」で、どこまで対応していくことができるのかについても明確ではない。また、学生が必要ではないと切り捨てたものは、どこで捨っていくかなど、まだまだ残る課題も多くある。

「A4 一枚一単元教材」は、使い方次第で、どんな授業にも、どんな学習者にも対応可能な柔軟性に富んだ教材であるという考え方は正しいと思うが、そうは言っても、「A4 一枚」である。内容や学習者の理解によっては、「A4 一枚一単元教材」だけでは、早く終わりすぎてしまうこともある。そこで、授業の中で使用していく場合には、ドリル・例文・QA など、教材には載らない部分を充実させて、時間を余らせない工夫をすることも重要だと感じる。よって、「A4 一枚一単元教材」だけでなく、教師用のレジュメのようなものもまとめていけたらと考えている。それに加えて、もっと学習したい生徒へ渡せるドリルのような練習プリントも充実させたいと考えている。生徒が苦手としがちな部分を中心に作成したり、あえて難しい問題にチャレンジさせたり、さまざまなパターンの練習問題を作っておきたい。

「学習者」や「学習環境」が変わりつつある現在、これまでの教授法や教材では、立ち行かなくなってきたのではないだろうか。筆者同様、そのような状況に困り果ててしまっている先生方も多いはずである。これまでの方法で対応できなければ、新しい方法を探すしかない。「A4 一枚一単元教材」の柔軟性は、そんな状況にも、プラスに働くであろうという思いが日々強くなるばかりである。

(まさい みほ・実践女子大学大学院 平成27年度 修了)

3 「授業中に寝るな」「行け」「決めろ」「走れ」など。